

## 武田 雅司 議員



### (一問一答方式)

- ① 大洲市公共施設等白書
- ② 福島第一原発事故から5年後の現在
- ③ 伊方原発廃炉と再稼働
- ④ 臥龍山荘3棟の国重要文化財指定

### 大洲市公共施設等白書について

**問** 当市を含む全国の多くの自治体では、公共施設等の老朽化が進んでおり、一斉に更新時期を迎えつつある。

また、本市では、人口の減少のほか、人口全体に対する高齢者の割合は増加傾向にあり、少子・高

齢化も進行する中、公共施設等の利用者の減少、利用ニーズの変化、市町村合併に伴い、施設の整備、統合も必要であるが、どのように対応を図るのか。

**答** 大洲市公共施設等白書の策定により公共施設等全体の状況が把握できましたので、現在公共施設等総合管理計画の策定に取り組んでいるところです。その中で、道路、橋梁、上下水道を初めとしたインフラについては、基本的に維持、更新を前提とし、公共建築物については統廃合等によりできる限りの総量削減を念頭に人口減少、利用者のニーズなど、さまざまな要因を考慮しながら施設類型ごとの管理に関する基本的な方針を取りまとめ、平成29年度からその方針を踏まえた施設別の個別計画の策定により具体的な施設の取り扱いを検討していきたいと考えています。

### 福島第一原発事故から5年後の現在について

**問** 東京電力福島第一原発事故による避難生活の長期化は、さまざまな問題を抱え、出口が見えないこれらの状況は伊方原発の近

くに位置する本市にとっても決して他人事ではない。たった一度の事故により今も多くの住民が苦しみ、事故処理に当たり、多くの課題を抱え、莫大な事業費を我々国民が負担しなければならぬというこの福島の現状をみて、今、市として何をすべきなのか、考えを伺いたい。

**答** 市の役割として現在最も求められるのは、万が一の事故の際、市民の皆さんが安全に、そして迅速に避難できるようにすることです。そのため、避難計画の実効性がより高まるよう努めているところです。避難計画に完璧や終わりはなく、内容の充実や強化に向けて市の役割を果たしていきたいと考えています。

現在も仮設住宅での営業を余儀なくされている商店街(福島県檜葉町)



### 臥龍山荘3棟の国重要文化財指定について

**問** 臥龍山荘3棟が国重要文化財に指定される見通しとなったことにより、本市の建造物の国重要文化財は5件になる。

今後訪れる方々に対し、その歴史などについてきちんと案内や説明ができるガイドの養成も必要と思うが、どのように考えているのか。

**答** 施設の内観や視察などの対応については、臥龍山荘専属の2名の案内人が交代でされています。また、「おおず街なか再生館」と「しろまちゲストハウス」の計5名のまち歩きガイドも臥龍山荘に関する知識を身につけていただき、訪れていただく方にその魅力を十分に伝えていくところです。

また、ガイドの養成については、現在開催中のおおず歴史花回廊でまち歩きガイド講座を開催しておりますが、この受講された方には南予博イベント終了後も継続して案内業務に携わっていただく予定としています。こういった機会を捉え、今後も人材の確保と育成に努めていきたいと考えています。